ジェンダー学　　杉浦 浩美

※実務経験のある教員による授業科目：単位数２

授業概要

日本はジェンダーギャップ指数が 146 か国中 118 位（2024）であり、ジェンダーギャップが大きい国（男女平等が進んでいない国）となっている。特に政治と経済の分野で男女の格差が大きく、その差を埋めることは政策的な課題でもある。なぜ女性が政治や経済の場で活躍できないのか。男性も女性も性的マイノリティも、平等にのびやかに活躍できる社会とはどのような社会なのか、具体的な事象をとりあげながら考えたい。

なお、担当教員は出版社(株式会社徳間書店)に編集者として 16 年間勤務した経験をもち、ジェンダーにかかわる書籍等も数多く手がけた。本講義においても「メディアとジェンダー」「企業社会とジェンダー」「労働とケア役割」「キャリアパターンとライフコース」等のテーマについて、自らの職務経験と社会経験を生かした形で講義する。

授業計画

第１回	「ジェンダー」って何？～ジェンダー概念について学ぶ
第２回	「女性学」と「男性学」の観点から
第３回	性と性差の多様性
第４回	ＬＧＢＴＱ／ＳＯＧＩ
第５回	教育とジェンダー①
第６回	教育とジェンダー②
第７回	メディアとジェンダー①
第８回	メディアとジェンダー②
第９回	中間のまとめと課題
第10回	企業社会とジェンダー
第11回	労働とケア役割
第12回	キャリアパターンとライフコース
第13回	職場とハラスメント
第14回	デートＤＶについて考える
第15回	社会政策とジェンダー
第16回	定期試験

到達目標

1．ジェンダー概念について理解し、ジェンダーの視点から様々な社会事象を読み解く力を身につけることができる。
2．日本における男女格差の現状について学び、理解を深めることができる。
3．男女共同参画社会への政策的アプローチについて学び、社会政策への関心を高めることができる。

履修上の注意

本授業は毎回、出席をとる。欠席が３分の１を超えた場合は成績評価対象外となる。また、授業中はノートを取ることを求め、授業内課題を出すこともある。負担の多い授業であることから、ジェンダー問題に関心をもつ学生、かつ継続して意欲的に受講し続ける意志とその自信がある学生に受講してほしい。

予習復習

「ジェンダー学」は単に知識として学ぶものではなく、つねに、現実の社会事象と関連づけながら、自らが「問い」を発し、それについて考える態度が必要となる。よって日頃から新聞を読む、報道番組を見るなど、社会に関心をもつ態度が求められる。そうした生きた「予習・復習」が必須であることを理解したうえで履修すること。

評価方法

定期試験（80%）と授業時の課題（20%）で判断する。

テキスト

『はじめてのジェンダー論』加藤秀一，有斐閣(1800 円＋税)
2017 年（ISBN 9784641150393）